

別紙様式

令和8年度 学校評価自己評価表

a ミッション	<p><校訓> 「挑戦と創造」 学び深く 志高く 未来を拓く</p>	<p>a ビジョン <学校教育目標>「未来を拓き、たくましく生きる子どもの育成」 【めざす 学校像】・聖神社の参道を上ると一生懸命な子どもの姿に会える学校・地域の願いや思いを共有し共に歩む学校・人が育ち信頼される学校 【めざす 子ども像】・学ぶ習慣を身に付け、自ら学ぶ子ども・きまりを守り、互いを認め合うことは「心地よい」と実感できる子ども・自ら目標を決め、粘り強く、最後までやり切る子ども 【めざす教職員像】・協働し、自己を高める教職員・夢を大切にしている教職員・時代の流れに敏感で感性豊かな教職員</p>	<p>(甲山中校区における児童・生徒に育てたい資質・能力) 「自発性」 「コミュニケーション能力」 「継続力」</p>	<p>世羅町立せらひがし小学校</p>
---------	--	--	---	---------------------

評価計画				自己評価					学校関係者評価			改善計画		
b 中期経営目標 (2年目/3年計画)	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
これから求められる学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ◇教職員一人一人が、これから求められる学力について理解する。 ◇児童が主語となる授業改善(児童個々の実態に応じて、選択させる場面等)を通して児童の変容を的確に見取れる力量形成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自ら学びを深めていく単元開発を学期に1回実施する。 ・各学期1回、児童の変容(発言、ノート及びワークシート等)を教職員間で交流し、授業改善に生かす。 ・個別学習の時間を確保し、基礎的・基本的な学力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」の割合を80%(89名/111名)以上にする。 ※R7全国学テ(72%:13名/18名) ・単元末テストにおいて、標準得点を越える児童の割合を80%(89名/111名)以上にする。 (R7:75%以上の目標値に対し、82.6%が達成) 											
感性豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ◇児童実態に即した「GO5せらひがしっ子」を徹底させるとともに、自分自身の言動をしっかり振り返る時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会を中心に新しい項目の「GO5せらひがしっ子」について協議し、1か月ごとに重点目標を設定する。 ・自分自身の言動について、振り返る時間を学期に複数回確保する。 ・学期に1回、友達の良い所見付け週間を実施し、給食放送等を活用して紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1か月ごとに決めた重点目標を達成したと肯定評価をしている児童の割合85%(94名/111名)以上にする。 ※R7児童アンケート肯定評価(85.3%) 											
自分事として考える心と体の育成	<ul style="list-style-type: none"> ◇健康な心と体を育成するために正しい知識の取得及び運動に親しませる体育科授業等を工夫して実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サーキット朝会や体育科の授業導入時に、積極的にアクティブチャイルドプログラム(JSPO日本スポーツ協会)を取り入れ、運動に親しませる。 ・児童が、自ら自分の体の状態等について考える時間を設定し、発達段階に応じた指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートにおいて、体育科の授業等を通して「目的や課題意識をもって運動に取り組んでいる」と肯定評価している児童の割合を85%以上(94名/111名)にする。 											
特色ある学校文化の創造	<ul style="list-style-type: none"> ◇学校運営協議会及びせらひがし小カフェをさらに充実させ、学校、家庭及び地域が活性化する取組を考えたり、学校の様子を適宜発信したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供達が家庭・地域へ、保護者・地域の方が学校へ行き来しやすい環境づくりを行う。 ・地域の願いや思いを可能な限り実現していくための熟議を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期に複数回せらひがし小カフェを開催し、交流のみならず持続可能なCSとなるよう熟議を行う。 (上半期に1回、下半期に1回児童も参加する。) ・各学期に複数回、児童が学校行事等における紹介文を書き、地域等に配布する。 											

【自己評価 評価】
A: 100 ≤ (目標達成)
C: 60 ≤ (もう少し) < 80
B: 80 ≤ (ほぼ達成) < 100
D: (できていない) < 60

【学校関係者評価】 イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。ハ: わからない。